

## 大地の恵み、いただきます 南保育園でゴーヤの収穫 & 給食を体験

8月9日、南保育園で育てていたゴーヤが収穫の時を迎え、園児たちが一つ一つ収穫しました。

同園では、夏場の保育室の温度上昇を抑制しようと、保育園の東側と南側にゴーヤの苗を植え「グリーンカーテン」作戦を試験的に実施。太陽の光を浴びたゴーヤは、ツルの高さが約7尺まで達するほど大きく成長し、東側一面が緑の葉っぱに包まれました。

収穫したゴーヤは、チキンカレーに入れてこの日の給食に。また、ご近所にもおすそ分けし、大地の恵みをみんなでいただきました。



▲収穫したゴーヤをご近所におすそ分け

## ダムに流れ込んだ流木を有効活用 ふれあいプラザに流木積み木を寄贈

8月12日、七ヶ宿ダム管理所の方がふれあいプラザを訪れ、ダムに流れ込んだ流木で作った積み木と箱を、子育て支援センターを利用する子どもたちにプレゼントしました。同管理所では、通常、お金を掛けて処分してしまう流木を有効活用できないかと考え、「子どもたちに喜んでもらえるものを」と積み木を製作しました。

積み木は、子どもたちが口に入れても大丈夫のように無害な塗料を使用。積み木を受け取った子どもたちは、早速、積み木を並べて電車や家を作って木のぬくもりを楽しんでいました。



▲8月12日はルンルンるーむの利用者が遊びました

## 目指すは未来の全日本代表! 第2回宮城県知事杯U15中学サッカー白石大会



▲激しくボールを奪い合う選手たち

7月31日・8月1日の両日、白石川サッカー公園で第2回宮城県知事杯U15中学サッカー白石大会が開催されました。大会には宮城県、福島県、山形県および新潟県から5チームが参加。本市からは「FC白石ジュニアーズU15」が出場し、ほかの強豪チームと真夏の炎天下の中、熱戦を繰り広げました。大会は、新潟県の「FC Agano」が4戦全勝で優勝。本市から参加したチームは、残念ながら4位でしたが、大会には、全日本U13ナショナルチームで活躍する選手もおり、ほかの選手たちの刺激になっていました。選手たちの今後の期待されます。

## 暑さに負けず、交通安全を願う 夏の交通安全「ひと休み運動」



▲炎天下でも、笑顔で交通安全の願いを伝える参加者

8月6日、毎年恒例となった夏の交通安全「ひと休み運動」街頭キャンペーンが、情報センター「アテネ」駐車場で行われました。

暑さで注意散漫になりがちなこの季節。ドライバーにチラシや飲み物を配りながら、直接声を掛けることで、交通事故を減らしたいと、白石地区交通安全協会白石支部と白石市交通安全母の会が毎年開催しています。

昨年は大雨、今年は30度を超す暑さの中でのキャンペーンとなりましたが、雨にも暑さにも負けず、笑顔で交通安全の願いをドライバーに伝えていました。

## 手づくりの良さを味わって 布草履を園児にプレゼント

7月27日、ボランティアグループ「まんさく」(田口洋子代表)の皆さんが西保育園を訪れ、手づくりの布草履を園児たちにプレゼントしました。同グループは平成10年に結成し、不要になった布などを利用して草履を作り、保育園などへ寄贈する活動をしています。

「まんさく」の皆さんは、「子どもたちの健康な足形(足裏)維持に役立ててほしい」「昔の履物を知ってほしい」という思いを込めて布草履を贈りました。園児たちは早速、その履き心地を体験し大はしゃぎ。最後に、みんなで盆踊りの曲に合わせて、夏祭り気分を楽しみました。



▲世界にひとつだけの布草履をいただきました

## 子どもたちの安全のためにできること 地域ぐるみで遊び場・遊具を点検

7月17日、「全国一斉遊び場・遊具安全点検」が実施されるのに合わせ、本市でも公園遊具の一斉点検が行われました。全国の母親クラブでは平成15年度から毎年、7月の第2日曜日から1週間を「遊び場遊具点検週間」として、公園などの遊び場の安全点検を実施しています。

本年度は、宮城県地域活動(母親クラブ)連絡協議会の「遊具安全点検」モデル地区に本市を指定。この日は、市内の母親クラブや公園愛護会、子ども会育成会など約70人が参加し、子どもたちの安全を考えながら、遊具の接続部などを一つ一つ確かめていました。



▲県連会長の佐々木とし子さんが点検方法を説明しました

## 自分の愛するまちを守るために 小原冷水水自治会自主防災会が防災訓練を実施



▲婦人防火クラブによる初期消火訓練

8月1日、小原冷水水自治会で自主防災訓練が実施されました。同自治会の自主防災組織は平成19年2月に設立。今回が初めての防災訓練となりました。

訓練は、婦人防火クラブによる初期消火訓練、防火水そうと消防ポンプを利用した火災防ぎょ訓練、炊き出し訓練などが行われ、参加した皆さんは30度を超す暑さの中、真剣に訓練に取り組んでいました。齋藤和男自治会長は、「初めての訓練でスムーズにいかない部分もありましたが、この機会にみんなが集まってコミュニケーションを図れたら」と話してくれました。

## 福祉の現場を肌で感じる 平成22年度夏休み福祉体験



▲目隠しをしての歩行体験

8月3日、市内の福祉施設などを利用し、子どもたちに福祉の現場を体験してもらおうと、「夏休み福祉体験」(白石市社会福祉協議会主催)が開催されました。

今回の体験には、市内4中学校から12人の生徒が参加。視覚障害となった方などからの話に、真剣に耳を傾けていました。また、目隠しをしての手引きや白杖を使った歩行、盲導犬との歩行など、障害の大変さを肌で感じていました。参加した生徒は、「障害のある方が困っていたら、声を掛けるようにしたい」など体験を通じた感想を話してくれました。